



# 札幌キリスト召団 小池辰雄記念図書室

本図書室は、自らを「無者」として福音に生きた小池辰雄を記念し、その著作・蔵書・雑誌(大正・昭和時代のキリストを証しする小冊子)等約1万冊を開設する図書室です。

ここに収められた聖書関係、キリスト教史、神学、文学、哲学思想等の図書すべては小池辰雄が生涯にわたって愛でたものです。蔵書から召団の信仰のルーツを感じとることができるでしょう。

また、小池辰雄の蔵書に親しめるこの空間は、どなたにとっても静かな憩いの場となるでしょう。

ここで語らい、祈り、思索するひとときをお過ごし下さい。

## 図書室のサービス

- 本の閲覧(まだ貸し出しありません)。
- 本の販売(小池辰雄著書ほか特別価格)。
- テープ、CD、DVDの視聴。
- 本、または信仰に関するご相談に応じます。
- コーヒーをサービスします。
- 祈り部屋をお貸しします。
- コピーサービスをいたします(有料)。

図書室内に「恵泉塾友の会」事務局があります。恵泉塾に関するお問い合わせ、ご相談、水谷惠信の著作の販売などを行っていますので、お気軽に声をお掛けください。



## 小池辰雄 (1904~1996)

1904(明治37)年2月7日、東京本郷に生まれる。父を5歳で失い、中学時代、長兄政美を失う。その悲しみで母は失明。一家が親戚に寄寓する中、内村鑑三の集会に出席、信仰の道を歩み始める。水戸高校、東大文学部ドイツ文学科と進み、聖書のホカルター、ヒルティー、ゲーテ、シラー、ダンテ、ミルトン、イギリス詩を読みふける。大学時代より、内村鑑三の弟子である藤井武の家庭集会に出席。藤井武召天後、塚本虎二の集会に参加する。1933年結婚。武蔵野の地に居を構え、1940年、自宅の一室を武蔵野福音伝道所として家庭集会を始める。

1950年11月、阿蘇山にて手島郁郎と聖書集会を持ち、聖霊のバプテスマを受け、豁然と原始福音に開眼する。以降集会を「武蔵野幕屋」と名付け『曠野の愛』誌創刊とともに、無教会派から離脱、新たな「キリスト道」へ進む。1953年、原始福音証誌『曠愛文庫』創刊、『聖霊の翼の蔭に』を発表。1961年、ハングル大学交換教授としてドイツに赴任、「日本宗教史」を講ずる。1962年、同大学にて「日本新教史と突破の神学」と題する公開講演、「無の神学」の構想を得る。1963年、ヒルティー『眠られぬ夜のために』を訳し刊行(白水社)。1964年、武蔵野幕屋を「武蔵野キリスト召団」と改称。召団誌『ハレルヤ』創刊。1964年、東大を退官、獨協大学教授を経て、獨協中学校高等学校校長に赴任。1972年、札幌から鹿児島まで、全日本12の召団を「日本キリスト召団」と称し、召団機関紙『エン・クリスト』創刊。1975年、小池辰雄著作集第1巻『無者キリスト』を書き下ろし、著作集の刊行を開始、1988年、第10巻『聖書は大ドラマである』をもって完結。没するまで東京キリスト召団にて日曜集会を続け、1993年、召団機関紙『エン・クリスト』を終刊、「日本キリスト召団」の総称を廃し、各召団独立を宣言。1996年8月29日、召天。